

# 『哲学の探求』第二十五号刊行にあたって

本年度の全国若手哲学研究者ゼミナールは、一九九七年一二／一三日に江ノ島にて開催されました。当日は西は広島から、大阪、京都、名古屋と遠方からの参加者も加わり、のべ三〇数名の若手研究者が集い活況を呈しました。

また、今年若手ゼミナールが一九七三年に開催されてから二五周年という決して短くない歴史を重ねてきたことを記念し、特別企画としてOBとの交流会も催しました。創立当時は修士の院生として参加なさった、渋谷治美さん（埼玉大 学助教授、当時は東京大学）と亀山純生さん（東京農工大学教授、当時は京都大学）のお二方が、参加者の思い出話や現在の若手ゼミに今も受け継がれていること、現在とはまったく異なっていた状況などを楽しいエピソードを交えてお話ししてください、あらためて若手ゼミの層の厚い伝統を実感し認識を新しくすることができました。

さらに今回『哲学の探求』第二十五号のために、創立時の世話人であり発起人でもあった吉田千秋さん（岐阜大学教授）と吉田傑俊さん（法政大学教授）に新しくエッセイを寄せていただきました。この場を借りてあらためて諸先輩方に感謝いたします。

若手ゼミは、全国の哲学・思想の若手研究者がシンポジウム・ディスカッション・個人研究発表の形式で、自分の専門だけではなく、副次的に行う野心的な研究も含めて、数少ない貴重な研究の発表の場を提供し、権威主義を廃し自由に議論することで独自の交流を築いてきました。一泊二日の合宿形式で、三十代半ばまでの大学院生、OD、教員などの若い研究者が、利害関係と専門の違いを越えて、遠隔の地から集い親睦を深めることは、横のつながりの機会が少ない私たち哲学研究者にとって、ほかにはない極めて希有な場となっています。

こうして研究の発表を自前の雑誌にして記録に残すだけでなく、雑誌を普及し、忌憚のない意見や厳しい批判を寄せていただき、さらにいっそう自由な哲学研究の輪が広がっていくことを期待しています。

一九九七年冬

## 第二十五回全国若手哲学研究者ゼミナール 代表世話人一同

小屋敷琢己 藤田祐一 中村裕子 千葉一弥 柿本佳美